

PHD

PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

LETTER

112

2009.12

- 夏のスタディツアー報告
- 研修生レポート
- 同じ買うなら使うなら「はたんぼ」

PHD運動とは1962年よりネパール、東南アジアを中心に医療活動に従事した岩村昇医師の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげて、平和 (Peace) と健康 (Health) を担う人づくり (Human Development) をすすめ、共に生きる社会をめざし、1981年からはじまりました。

発行：財団法人PHD協会 理事長 今井 鎮雄
編集人：藤野 達也
住所：〒650-0022 神戸市中央区元町通5-4-3
元町アーバンライフ202
TEL 078-351-4892 FAX 078-351-4867
E mail：phd@mb1.kisweb.ne.jp
U R L：http://www.kisweb.ne.jp/phd
定 価：100円
郵便振替口座：財団法人ピー・エイチ・ディー協会
01110-6-29688

PHD協会は特定公益増進法人の認定を受けています。



インドネシア 西スマトラ州 バリアマン 撮影：佐藤雅美 (教員 ツアー参加者)

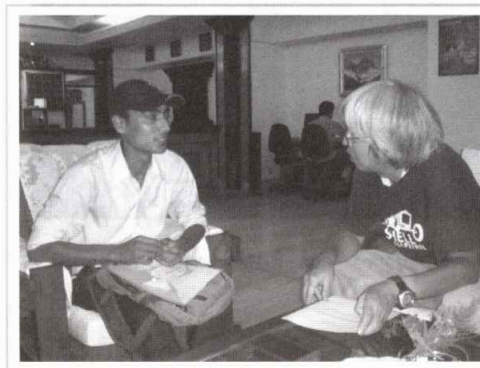
インド洋に面したここは西スマトラ州、パリアマンの浜辺。
砂浜に木造の船をおき、毎朝、人力で海に送り出す。
昼前に沖から戻ってきて、またみんなで浜へ引きあげる。
それからカゴいっぱいの魚をセリの場所まで、これも人の力で運ぶ。
今度の地震で村の家や建物は壊れたけれど、
もともと港湾設備もないし、その気になればすぐにでも漁に出られる。
たくましいね。

東西南北
問題解決
取組日記

サンバさんの遺志をついで

7月末に兵庫県篠山市の篠山ナマステ
会との共催のネパール・スタディツア
ーを行った。その中でバラト・ピスタ
さん（82年度研修生）の活動地域カブ
レ郡クンタ村、ガハテ村を訪ね、次年
度の研修生選考を行った。10人の候補
者の中からミン・クマリ・タマンさん（16
才）とウルミラ・ライ・ダヌワールさん（28才）の二人の女性を選ぶことが
できた。

この村での滞在を終え、カトマンズ
に戻ると、そこにひとりの青年が待っ
ていた。彼の名前はサノジュ・カヤス
タさん。彼は第2期生サンバ・カヤス
タさん（83年度）の息子さんであった。
毎回出張が決まるとももって帰国した
研修生には、その訪問を知らせている。
今回もサンバさん宛に手紙をだしてお
いた。これまでに3回に2回は西ネパ
ールのダイレクからでてきてくれた。
今回は本人の姿は見えない。初めての
出会いとなる息子さんから「父は亡く
なった」と聞かされた。今年2月、市場
を歩いていて倒れ、手当の甲斐なく亡
くなったという。56才だった。



サンバさんの息子サノジュさん（左）

サンバさんはPHDの提唱者岩村昇医師
のネパールでの活動時代に結核予防会
で臨床検査技師をしていて知りあい、
PHD研修生に選ばれたいきさつがある。
日本での研修後カトマンズでの元の職
に復帰する道もあったのだが、あえて
僻地での保健活動をするを選んだ。

Community Health Development
Programと名付けられたサンバさんの活
動は、飲料水の供給、移動診療所、性

感染症予防への啓発と多岐にわたって
いた。出会うたびに報告をうけていたが、
その現場へはカトマンズからの往復だ
けでも一週間かかるので、これまで訪
ねられずにいた。悲しい知らせではあ
ったが、サンバさんがはじめた活動を
息子たちが、引き継いでいることを聞き、
とてもうれしかった。

個人のためだけではない地域みんな
のためというPHDの考え方にもとづく
活動が次の世代に引き継がれているこ
とをきけば、天国の岩村ドクターもき
っとよこんでくれるに違いない。

研修生の村にも地震の被害が

いつも益明けにでかけるインドネシア、
スマトラだが、今年はその時期がイス
ラム教の断食時期にあたってしまったため、
8月上旬に時期をずらしてでかけた。今
回は米谷取理事も同行し、新しい村タ
ラダダマでの次期研修生の面接に立ち
会った。元研修生たちとも協議の結果、
ここからの招へいは、2011年度にする
こととなった。

そのスマトラで9月30日、また大きな
地震があった。地震から数時間後に山
の村タベのエリさん（03年度）の携帯
電話から無事との連絡が入って、一安
心したものの、翌朝の新聞でパダン、
パリアマンで大きな被害がでていた
ことを知った。この地域にも研修生、関
係者が住んでいる。

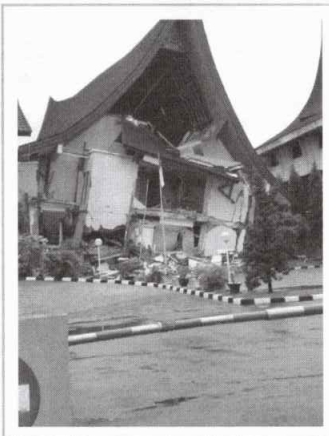
パダン在住でこれまでの研修生送り
出しの窓口のシャリフ・アリさんに電
話を入れるが繋がらない。続いてパ
リアマンの漁村パシルバルーのアリ・
ムルティムさん（87年度）のところに
電話を入れた。こちらはつながり、状
況を尋ねると、地震直後に津波をおそ
れ避難していて、戻ってきたところと
のことだった。アリさんの家は一部壊
れただけで、家族も無事。この村から
の研修生、ハスマヤニさん（92年度）、
サムスアリスさん（90年度）も大丈夫
とのことだった。しかしながら、多く
の家が壊れ、住めなくなった人は近所、
親戚の家で寝泊まりをしている、モス
ク（イスラム寺院）や漁業協同組合の
施設などに大きな被害がでていると
のことだった。

PHD協会は災害救援を行うことを目的
とした団体ではないが、今回は日本で

学んだ研修生が帰って、生活改善にと
りくんでいる地域が被災しているため、
支援を行うこととし、募金を開始した。
現時点ではアリ・ムルティムさんの情
報にもとづき、学校、診療所、漁協設
などの修復への協力を考えている。
ボランティアとして事務所に入入りし
てくれていた学生さんが、丁度ジャカ
ルタに留学しており、近々、被災地
に入るとの連絡が入ったため、彼女から
の報告とあわせ、集まったお金をどこ
に使うかの検討をする予定だ。当会か
ら人もを送り込み、情報を得ることも
考えたが、その費用も復旧にあてても
らう方がよからうと見送った。

パダンのシャリフ・アリさんとは、4
日後に、eメールを通じて無事との知
らせが入って、こちらもよかったと、
胸をなでおろした。

通常のPHDの活動支援に使っていた
だいている郵便振替口座でスマトラ支
援を受け付けています。連絡網にスマ
トラ支援と記入の上、ご送金下さい。



以前泊まったこともあるパダンのホテルも倒壊

チャールスさん逝く

10月15日、スリランカの元研修生ア
ジャンタさん（88年度）から電話があ
った。スリランカからは86年から92年
に6人の研修生を招いてきているが、そ
の窓口となり、自らも短期研修生とし
て87年に来日したチャールス・アピク
ーンさんが亡くなったとの知らせだった。
ここ2、3ヶ月体調を崩し、一時入院も
していたという。この地域のまとめ役
として、若い研修生を支えてくれた。
これからはナンダナさん（91年度）た
ちが先頭になってこの地域の課題に取
り組んでいくことになる。チャールス
さんのご冥福を祈り、研修生たちの働
きに期待したい。

総主事代行 藤野達也

今年は先生がたくさん参加！

夏のスタディツアー報告

ネパール

7月21日～29日



次年度研修生の
選考の様子

昨今のマスコミ報道もあってか、日
本の子も達が自分達の裕福さを振り
返る機会が増え、国際協力に関心を持
つ生徒が増えたのは喜ばしい事実であ
る。しかし、高校生向けの職業選択の
ガイドブック等で「国際協力」を調べ
ると、高度な語学力に専門知識、強い
精神力と正義感を併せ持つ、選ばれた
人々だけが担う地球規模の壮大な活動
であるかのように書かれている。決し

て嘘ではないが、そういった職業案内
が若者に距離感を持たせているのも事
実である。PHD協会や篠山ナマステ会、
または兵庫県東粟市の支援する学習支
援センターを見て、そうした文言を超
えた、極めて普段着の、純粋に隣人を
助けようとする「お手伝い」の延長線
上に国際協力があるということ強く
感じさせられた。

様々な形はあるにせよ、スタディ・
ツアーに参加すること、その経験を周
りに伝えること、小さいながらも何か
行動を起こすこと全てが国際協力に繋
がるのであれば、国際協力に携わるこ
とは決して難しいことではない。地域
住民の生活を体験し、住民のニーズを
把握し、そのニーズを形にしていける「草
の根」の取り組み。国際的な政治情勢

や経済情勢を超え、一個人の利害を超
え、淡々と地域の支援活動を続ける日
本の人々。自分達の地域や生活を、自
分達の力で改善していこうとする現地
の人々。そうした存在を確認し、自分
自身の意志さえあればいかなる協力も
可能であるということ教室で伝えて
いくことが、私達日本の教師の役目な
のだろう。（米山周作・教員・さいたま市）



ポカラの研修生とツアー参加者

インドネシア

8月2日～10日



今日は町のお医者さんの話を聞きました。

帰国した研修生たちはタベ村の4人
を中心に、協力し合ってそれぞれの活
動を進め、その活動が地域に広がって
いた。特にミミさん（02年度）、エリ
さん（03年度）は村の女性の中心とし
て幼稚園や婦人会の活動に積極的に、

近隣の村へも母子保健などの話をしに
行っているとのこと。母子保健のこと
などは生きていく上でとても大切なこ
となので、これからもどんどん広げて
ほしい。男性の研修生たちも帰国後進
めてきた活動や、「今後もっと〇〇し
たい」「次は〇〇しようと準備してい
る」など抱負をいきいきとした表情で
語ってくれた。お世話をされた農家
の方などが聞かれたら本当にうれし
いだろうと感じた。また研修生たちは
いぶふん年月が経過していても、日本
のどこでどんなことを勉強したのかし
っかり覚えており、日本での研修がど

ほど意味のあるものであったか、彼ら
に与えた影響の大きさが伝わってきた。
（喜多川直子・教員・篠山市）



フットラさん
（06年度）
家の前の畑を養
殖地にし、2種
類の魚を育てて
います。

帰国研修生短信
インドネシア

ペリスマンさん（08年度）



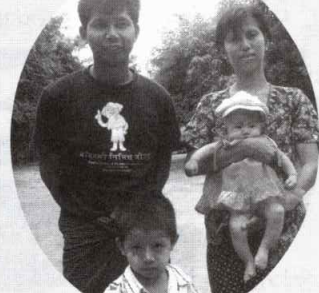
帰国後、日本での研修について
村の人に話す。家族、隣近所か
ら実践。新たに牛を購入。

ヘルマさん（07年度）



昨年11月に結婚し、8月下旬に
女兒の母に。出産後は帰国後始
めた保育園で引き続き働く。

スウェウィンさん（02年度）
カインソーさん（96年度）



今年は雨期に雨が少なく、野菜は育
たない。鶏糞や牛糞で堆肥を作り米
の栽培に利用。2人目が生まれ、家
族が4人に。

ビルマ

研修で学んだ魚粉と黒糖を
利用したアミノ酸の液を作
り、肥料として利用。



ボーボーハンさん
（08年度）

27期生研修生レポート

ザーナウンさん (22歳・ビルマ)



6月～10月の研修

- 寺田まさみさん (兵庫県豊岡市/野菜・稲作)
- 渋谷富喜男さん (神戸市/野菜)
- 中野宗嗣さん (丹波市/野菜・稲作・酪農)
- 吉田吉彦さん (丹波市/野菜・稲作)
- ふえるう村塾 (西脇市/養豚)
- 橋本慎司さん (丹波市/野菜・稲作・養鶏)
- 大森昌也さん (朝来市/野菜・稲作・養鶏)
- 西川則孝さん (愛媛県西条市/野菜・ハーブ・養鶏)
- 泉精一さん (松山市/野菜・果樹・養鶏・肥料)

わたしは日本での研修を終日、日没まで熱心に指導を受けるザーナウンさん(愛媛県・松山市)

わたしは日本でゆきののぎょうをべんきょうしました。たひひひひとにわたりのえを つくりこ、うらなやといのうえるがたをべんきょうしました。よくのついのきり、よくのついのきりつものはつちです。つちのながにひせいぶつが、わでみえない、はたけにががくひりょうのうやくをつかう。だからひせいぶつがしぬ。しぜんのはのうやくをぜんぜんつがわないうでせう、ひせいぶつがはたけのつちをよくなる。なぜやまのきともりはおおきくなりますが、だれもひひひをださない。でもけんきになります。やまのつちのながにひせいぶつが、いいつちをよくしています。よくのつちがけんきになります。ひょうきがない。だからひせいぶつがのぎょうのためにたいせつなものです。

ザーナウン

出身のヨンピン村周辺の特徴に合わせ、これまで兵庫県内を中心に9カ所で研修を行い、米や野菜の栽培、家畜の飼育について学んできました。ザーナウン

さんの関心は幅広く、希望する研修内容が多岐にわたっていますが、来日した当初から自分なりに把握している農業の問題と研修で教わりたい内容を細かく整理できていました。

その中でも特にザーナウンさんが強く意識していることは、肥料や土壌改良についてです。これを受け、家畜の飼育と野菜の栽培を行っているいくつかの研修先では家畜の糞の活用方法や施肥の際に注意しなければいけない点について学んできました。また同様に、出身地でよく栽培されている豆などから油を搾った後に残る粕を肥料に利用する工夫も学びました。

夏にはヨンピン村周辺でもよく栽培されているトマトやナスなどの夏野菜の栽培や稲作の合鴨農法についても学びましたが、ザーナウンさんにとって一つやり残したことは、豆栽培の病気対策について教わることです。これについても是非、解決策を見つけて持ち帰ってみたいと思います。

来日して半年が過ぎ、日本の生活にまだ馴染みきれていない面もところどころ見えますが、研修生3人ととても仲良く、研修を含め日本での生活を楽しんでいきます。これまで2回ビショさんやロザさんも伴って、ホストファミリーのご主人と一緒に六甲山に山歩きにも出かけました。これからは2回の研修旅行に加え、農業以外の研修が多くなりますが、色々な体験を通して若さをカバーできるくらいに成長し、帰国後の活動につなげて欲しいと思います。



野菜の販売方法について考えるのも農業研修の一つの大切な目的です。(豊岡市)

ビショさん (21歳・ネパール)



ネパールで柑橘類栽培に生かせるように研修中(大分県豊後大野)

6月～10月の研修

- 藤井誠次さん (兵庫県神戸市/野菜・養鶏)
- 篠山ナマステ会 (篠山市/研修調整)
- 渡辺拓道さん (篠山市/野菜)
- 中末智己さん (篠山市/野菜)
- 牛尾武博さん (市川町/野菜・稲作・養鶏)
- 上田和夫さん (篠山市/野菜・出荷)
- 真柴三幸さん (佐用町/酪農)
- あい・ネパールの会 (山口県下関市/研修調整)
- 中谷康史さん (山口県下関市/野菜)
- 森岡雄平さん (大分県豊後大野市/果樹・野菜・稲作)
- 伊藤博文さん (和歌山県広川町/柑橘類)
- 西日本三菱農機販売株式会社篠山支店 (篠山市/農機メンテナンス)

PHD活動の初期のころからPHD研修生を支えていただいている篠山ナマステ会のご協力の下、ビショさんはここまで農業研修の約2/5を篠山で行ってきました。

その中で研修の目玉として用意してくださったのが、丹波篠山特産の黒大豆の栽培です。初夏の定植から秋の枝豆の収穫まで、栽培管理の一連の流れを追うような形で研修を行ってきました。また、地元の朝市などを見学し、野菜の出荷についても学びました。

同じく古くからネパールのPHD研修生を応援してくださっている山口県のあい・ネパールの会の皆さんのご協力により、今年度初めて下関と大分県で農業研修をお願いすることもできました。それ

ぞれの研修先ではビショさんの出身地の特性に合った方法での野菜栽培についてお知恵をいただくことが出来ました。

ビショさんの希望により急遽調整した和歌山でのみかん栽培の研修は、あいにく雨にたたられてしまいましたが、成育増進・収量増加のための大切なお話を聞いてきました。

どこに行っても人一倍明るいビショさん、時には指導者の方が疲れてしまうこともありましたが、ここまで日本の生活を十分楽しみながら研修に取り組んできました。他の二人に比べて体調を崩すことが多いため、これからの季節、風邪を引くことがないように、体調の自己管理も心がけなければなりません。



日本で最初の研修では野菜の苗をポットで作る方法を教わりました。(神戸市)

日本での研修は、同じ村出身の2年前の研修生ヘルマさんが日本で受けた研修を考慮に入れ、保育と洋裁の研修のバランスをとりながら帰国後の活動に繋がるように行ってきました。



ネパールでは日本ではよくあたりみがかきりません。よくなるように、だからしたのえだをこのようにほうみがきります。ちいさくておもしろいです。ビショさん

ロザさん (20歳・インドネシア)



保健センターで離乳食教室の準備を手伝うロザさん(島根県・松江市)

6月～10月の研修

- はらっぱ保育所 (兵庫県西宮市/保育)
- 滞在：前田公美さん宅
- 波賀みどり保育園 (宍粟市/保育)
- 宍粟市社会福祉協議会波賀支部 (宍粟市/保健衛生)
- 滞在：中村一日郎さん宅、小林喜美子さん宅
- トルハースト山崎直子さん (神戸市/洋裁)
- ささやま保育園 (篠山市/保育)
- 滞在：山岸永子さん宅
- 小林嘉子さん (篠山市/洋裁)
- 宍道健康センター (島根県松江市/保健衛生)
- 滞在：林康文さん宅、浜村愛子さん宅、森脇智子さん宅、長谷川健美さん宅
- 東出雲町保健相談センター (東出雲町/保健衛生)
- 滞在：米田祝子さん宅
- 岡田信子さん (西ノ島町/洋裁)
- シオン保育園 (西ノ島町/保育) 等
- 滞在：佐倉真喜子さん宅
- 赤坂真砂さん (兵庫県神戸市/洋裁)
- 太陽保育園 (養父市/保育)
- 滞在：室見千尋さん宅

ロザさんの研修は、同じ村出身の2年前の研修生ヘルマさんが日本で受けた研修を考慮に入れ、保育と洋裁の研修のバランスをとりながら帰国後の活動に繋がるように行ってきました。

保育研修では保育士さんや栄養士さんについて日常の仕事を見学したり一緒に作業したりしながら、乳幼児の健康管理の面から栄養や衛生のことを中心に学びました。育児休暇中のヘルマさんに代わり、帰国後はロザさんが村の保育園を盛り上げていくことでしょう。

保健衛生の研修は8月下旬から1ヶ月間集中して、島根県内3カ所でご指導いただきました。幼児やお年寄りの健康に関する日頃の生活で直ぐに取り入れられることから、脳卒中や女性特有

の癌に関するお話など、各保健センターで実施されている事業を見学し、学ばせていただきました。専門的な難しい言葉も、しっかりと研修中に復習し、理解して神戸に戻ってきました。

洋裁の研修では本人のやる気を大切に、ミシンを触ったことがなかったロザさんが基礎技術をしっかりと身に付けられるよう、先生方と相談しながら進めてきました。その結果、ロザさんが強く希望していた長袖のブラウスは上手に作る事が出来るようになりました。後は繰り返し練習するのみです。次の洋裁研修では長ズボンにファスナーとベルト通しを付けることを練習します。



最初の洋裁研修では先ずミシンに慣れることを目的にエプロン縫いました。(神戸市)

1ヶ月間の研修は、同じ村出身の2年前の研修生ヘルマさんが日本で受けた研修を考慮に入れ、保育と洋裁の研修のバランスをとりながら帰国後の活動に繋がるように行ってきました。

保育研修では保育士さんや栄養士さんについて日常の仕事を見学したり一緒に作業したりしながら、乳幼児の健康管理の面から栄養や衛生のことを中心に学びました。育児休暇中のヘルマさんに代わり、帰国後はロザさんが村の保育園を盛り上げていくことでしょう。

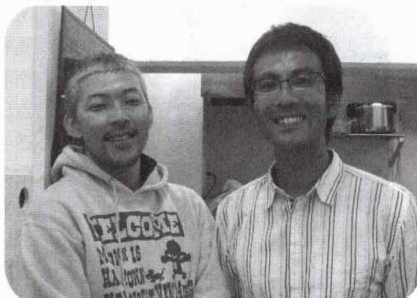
保健衛生の研修は8月下旬から1ヶ月間集中して、島根県内3カ所でご指導いただきました。幼児やお年寄りの健康に関する日頃の生活で直ぐに取り入れられることから、脳卒中や女性特有

インドネシア
シラジャヤ ロザンフェル

同じ買うなら、使うなら!

～PHDでボランティアをしている
妻と夫のある日の会話

妻 あなた、市島（兵庫県丹波市）で農業を始めた山田さんを知ってる？
夫 山田恭平さんだろう？兵庫県有機農業研究会（兵有研）の理事で、PHD協会の研修指導者でもある橋本慎司さんの下で、今年4月から農業研修を受けているんだってね。
妻 電器メーカー勤務からこの世界に飛び込んできたそうよ。7月から



「はたんぼ」店長の越智良典さんと山田恭平さん

は兵有研の研修にも参加して、他にも集会や勉強会・・・

夫 そして暇さえあれば自分の畑を世話しているそうだよ。ナスやトマトの季節は終わったから、今はサツマイモの収穫なんだろうな。

妻 でも、この先、野菜を売って生活するのは大変でしょうね。

夫 確かにね。けど、農業で生計を立てることが山田さんの最終目標ではないみたいだよ。『有機の里』と呼ばれる市島に、もっと人を呼び込める活動をしていきたいそうだ。

妻 農業を通じた地域の活性化まで視野に入れているのね。市島ですでに十数名いる新規就農者が中心となって、山田さんの言う『仲



阪神「甲子園」駅から南へ徒歩10分

間のいる場所』を築けたら素晴らしいわ。

夫 どう？援農に行ってみない？
妻 兵有研の企画？もちろん行くわ！私たち素人も大歓迎みたいだし。
夫 山田さんにも会えるかもね！

「はたんぼ」は、兵庫県有機農業研究会の直営店。新鮮な有機野菜が買える他、ホテルシェフの経験を持つ越智良典店長が腕を振るう最高の料理が楽しめます。市島で研修を受けながら、月に2度この店のレジに立つのも山田さんの仕事。その時には自ら作った野菜もお店にならびます。

菅原宗晋



お問い合わせ先

はたんぼ
〒663-8178
西宮市甲子園八番町5-20
TEL 0798-48-6911
FAX 0798-48-6922



今年の夏も佛教大学から4名(写真前列)のインターンを受け入れました。2週間の活動期間中、研修生との農業体験、バザーの手伝い、セミナー補助など幅広く業務に携わりました。

研修生はみな、日本に来てやりたいこと、目的が明確で、相手に流されることはありません。私ももっとしっかりと自分の将来について考え、自分の意見をしっかり持って就職活動に挑みたいと思いました。海外研修生の受け入れは日本から技術を与えていると思っていたのですが、お互い教え合い、外国の方々から学ぶことが多くあると思います。 田中美佳

研修生と農作業を体験。もっと農業をやりたいとの思いから、インターン後、丹波市の研修指導者中野宗嗣さんのお宅で3日間農業体験をした人も。

25日～27日中野さんの所に農業体験に行ってきました。朝早くから牛の乳搾り、畑仕事など1日をフルに使っての農作業でしたが、しんどくなることもなく、たくさんのお話を教えていただきました。ちょうど、行った3日前に子牛が生まれていて、ミルクやりが本当に楽しかったです！ 高橋沙代美

また昨年2月に受け入れた名古屋の南山短期大学のインターン生3人からも便りが届きました。地元名古屋に戻り、笹島の炊き出しの活動に参加したり、名古屋でのホームレスの実態調査をまとめて送ってくれたり、その後も積極的に活動しています。

国内問題を考える勉強会 in釜ヶ崎2009夏



今年で2年目となる勉強会。7月31日～8月2日に実施しました。今回は大学生、高校生の参加が多く、合計11名となりました。知らなかった釜ヶ崎の現状、野宿者問題、日本の社会構造、その歴史などを知ることで、その「知った」ことへの責任を、今後どのように形にしてくのか。それぞれの課題となりました。冬にも行います。

2月26日(金)～28日(日)2泊3日
*勉強会と一緒に企画して下さる方も募集しています。

常翔啓光学園での交流会



毎年この時期恒例の常翔啓光学園での交流会です。今年は1限目に村の紹介や研修の様子などお話しした後、ピジョンさんが笛の演奏、ロザさんが血踊りを披露。2限目のパネルディスカッションでは、文化の違いや村での生活について幅広く意見交換ができました。

国際協力入門講座 (全3回)



ここ数年地元神戸では講座をしてきませんでしたが、久しぶりの開催。国際協力はって何？誰がどのようにしているの？といった概論に始まり、アジアの村にある問題と日本とのつながり、日々の生活の中でできる国際協力について10月9日、16日、23日の3日間に分けて行いました。

夏のスタディツアー 合同報告会



夏のスタディツアーの合同報告会を9月12日、神戸で行いました。ツアー参加者を中心に15人が集まり、それぞれのツアーの様子をスライドで紹介しました。ネパールの紅茶、ビルマのお菓子を食べながらの和気あいあいとした会になりました。



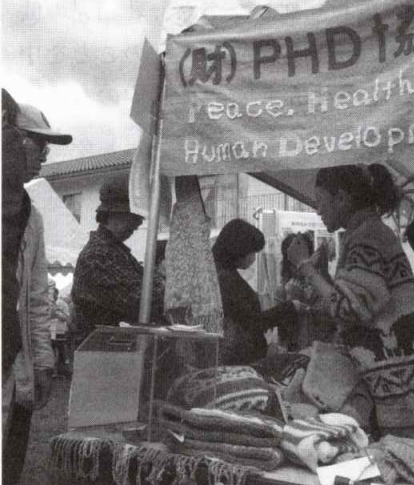
春から新しいメンバーが加わりました。日本語ボランティア、研修生の洋裁指導として春から積極的に関わって下さっているトルハースト山崎直子さんと和裁の勉強をされている吉田明希子さん。おふたりの和洋裁合作で、カレンの布をつかった新しい看板ができあがりました。古布やフェルトと草木染めの風合いがうまく調和され、あたたかみがあります。草木染めを使った新しい形になりました。

また、着物好きのメンバー3人から帯や日傘など、ミーティング毎に新しいアイデアが飛びかっています。

「布をたのしみ、アジアに親しむ」ということば通り、カレンの女性の織る布をどう活かそうかとワイワイと思案しています。

こんなソディミーティングを覗いてみませんか？原則第3土曜の17時からPHD協会で布を通して、タイとそして日本の中でも繋がっていきましょう。

10月10日神戸市シルバーカレッジの学園祭。新しい布でできた看板も大活躍でした。



PHD運動をより多くの皆さんとともに！ 会員拡大キャンペーンご報告

ご協力いただき、ありがとうございました。

ここ数年の会員数の大幅な減少を受けて、2009年4月1日から6月30日まで会員拡大キャンペーンを実施しました。多くの皆さんにキャンペーンをご紹介いただいたお陰で、25名の方が新たに会員となりました。ご協力いただき、本当にありがとうございました。

ただし会費収入は依然減少しており、前年度比マイナス651,000円(9月末現在)となっています。今後も、引き続きより多くの方にPHD活動を知っていただき、会員となり継続してご支援いただけるよう努めます。また既にご支援いただいている皆さんにも新しいご提案、事業に対するご意見などを広く受け付けています。

- 6月21日 佛教大学 インターンシップ事前研修「社会における私の役割」
- 6月26日 松原高校来所・「産業社会と人間」社会体験
- 7月10日 阪神シニアカレッジ「NGOの国際協力活動」
- 7月11日 関西国際大学SLワークショップ
- 7月12日 加東市連合婦人会報告会
- 7月21日～29日 ネパール・スタディツアー
- 7月31日～8月2日 国内問題を考える勉強会in釜ヶ崎
- 7月31日 JICA大阪ワークショップ「する協力、しない協力」
- 8月2日～10日 インドネシア・スタディツアー
- 8月5日 ふれあいチャリティフェスティバルLOVE WAVE IN KOBE (須磨ノ浦女子高等学校)
- 8月10日、11日 多文化共生のための国際理解・開発教育セミナー
- 8月15日～23日 ビルマ・スタディツアー
- 8月29日 会員拡大キャンペーンツアー
- 9月5日 PHDのついで第1回「異邦人からみた不思議なビルマ」
- 9月12日 夏のスタディツアー報告会
- 9月18日 広島市立大学来訪
- 9月25日 常翔啓光学園交流会
- 9月25日～ 関西国際大学講義「人間学」
- 10月1日、8日、15日 佛教大学講義「現代社会と職業」
- 10月5日 吉備国際大学講義「誰のための国際協力」
- 10月9日、16日、23日 国際協力入門講座(全3回)
- 10月10日 神戸市シルバーカレッジ学園祭
- 10月21日 PHDひだ友の交流会
- 10月22日 国際ソロプチミスト高山交流会
- 10月27日 国際ソロプチミストかみ野20周年事業
- 10月30日 百合学院高等学校来所・国際理解「PHDのフェアトレード」
- 10月31日 研修生中間報告会

第28期研修生 ホストファミリー募集



ミンクマリ タマン
ネパール・16才・女性



ウルミラ ライ ダヌワール
ネパール・28才・女性



エー サンダー ミン
ビルマ・18才・女性

期間
経費

2010年4月中旬～2011年3月中旬

当会の規定により、食費と滞在費をお支払いいたします。
その他、交通費、医療費などは基本的に当会が負担します。

応募条件

当会事務所から公共の交通機関で1時間以内で通える範囲。

PHD NEWS

◆会費・ご寄附寄託状況

2009年	6月	77件	¥1,079,559
	7月	308件	¥3,331,283
	8月	187件	¥1,840,426
	9月	69件	¥2,190,930
		641件	¥8,442,198

上記の通り多くの皆様より貴重なご浄財を賜りました。今年度も年末募金が始まります。「人づくり、村づくり」を続けていくために、引き続きの力強いご支援をお願い申し上げます。

また、全日本自動車産業労働組合総連合会様、日本労働組合総連合会様、稲次さゆり様より多額のご寄附をいただきました。心から感謝申し上げます。

◆スマトラ島沖地震へのご支援のお願い

2項の記事にあるように、今回のスマトラの地震で、研修生の村にも被害が出ています。今後の復興支援のため「スマトラ島沖地震募金」として募金を集め、研修生に届けたいと思います。通常の振替用紙に「スマトラ支援」と明記し、ご協力をお願いいたします。



思いがけないことがわが身に起きた。健康にだけは自信のあったこの私が4週間も入院する羽目になった。幸い大事に至らず退院してきたが、多くのものを持ち帰ってきた。

「病い」を得て世の中を知るという奴だ。看護士さんの献身的な介護・笑顔、友人・知人の励まし、家族の支え等々どれをとっても感謝することばかり。悪いことを考えたら切りがない。ここはプラス思考。これは試練だ、私は他人がしていない体験をさせてもらっているのだ。苦虫をつぶし

お振込み先

ゆうちょ銀行(郵便振替)

口座番号: 01110-6-29688

口座名: 財団法人ピー・エイチ・ディー協会

◆車をご寄附いただきました

PHDの公用車タウンエースが寿命を迎えました。2003年7月に当協会会員の高橋逸様よりご寄贈の車は、これまで延べ15万キロ走行で頑張ってくれました。あらためて感謝申し上げます。後継車については、国際ロータリー第2680地区パストガバナーで株式会社神戸マツダ代表取締役会長である橋本一豊様(元当協会評議員)より、ご寄贈いただきました。ありがとうございます。大切に使用させていただきます。

◆これからの「PHDのつどい」

第3回「PHD to 水俣～つながる国際協力と地域活動～」

日時: 2010年1月30日(土)16:00～18:00

話し手: 坂西卓郎さん

第4回「未来への一歩～アフリカの少女・マーサとの出会いで見えたもの～」

話し手: 酒井仁美さん

日時: 2010年3月27日(土)16:00～18:00

参加費: 各700円(お茶、お菓子付き)

場所: PHD協会事務所

ていても周りが心配するだけ。それならいつも笑顔、いつも有難う。退院したら何処へ行こう、何食べよう、どんなサプライズ企画しよう。簡単なことばかりだ。でも今まで出来ていた? “否” 皆さんはいかが。要は、思いもかけないことが身に降り掛かった時どう受け止めるかだ。

その時PHD研修生のことが思われた。彼らの毎日は思いがけないことの連続なのだろう。彼らはどのように受け止めて励んでいるのだろう。さらには故郷の大災害。でも彼らは明るい。若さ・熱意・好奇心が我々の杞憂を吹き飛ばしてくれる。残り数ヶ月を切る研修に彼らの更なる収穫を期待している。(ボランティアS)

◆タイ・スタディツアー報告会

年末年始のタイ・スタディツアー報告会を行います。タイの村の生活、研修生の様子、布グループの活動などを撮りたての写真を通してご紹介します。どなたでも無料でご参加いただけます。

日時: 2010年1月30日(土)14:00～15:00

場所: PHD協会事務所

◆西日本研修旅行のご案内

1月中旬、約2週間研修生が西日本各地を訪ねます。各地で学ばせていただくとともに、交流の会ももちます。詳細は、ホームページをご覧ください。

宮崎～鹿児島～熊本～大分～福岡
～山口～広島～岡山

◆年末年始は書き損じハガキの季節です

毎年この時期、皆さんにご協力をお願いしています。余ったり、書き損じた年賀状、ハガキがありましたら、PHD協会にお送りください。日々の郵送料として活用させていただきます。

〇月×日のPHD協会

— 近ごろ残念だったこと

職員 川原 カレンの布、ネパールのセーターを買っていただこうと各地行事への出展。しあわせの村でのバザーは、集中豪雨で中止。皆さん、お声を。

職員 三輪 いい仕事の基本は健康から。手洗い、うがいで身を守ろうとするも、事務所の向かいの席の咳にやられたのか、帰宅後、寒気が。くやしい。

職員 高垣 あちこち各地調整して、研修生の日程を組む。ご無理をきいてもらったところで、研修生が風邪をひいて寝込んでしまい、ごめんなさい。

職員 藤野 高校で4百人を前にお話する予定が、インフルエンザで中止に。平和と健康を担う人づくりへの呼びかけの前に、病気に先を越される。

職員 佐々木 財務担当。基本財産からどれだけの利息が生まれるか気にする日々。円高、低金利から運用収入が減り、気苦労は増える。逆がいいのに。

(寒くなると活動がにぶくなる順)

制作協力: 菅原宗晋 増本一朗 坂井時和
-再生紙を使用しています。